

次期中間処理施設整備事業の用地選定に関する意見書

印西地区環境整備事業組合
 次期中間処理施設整備事業
 用地検討委員会 委員長 寺嶋 均 様

平成 26 年 6 月 17 日提出
 印西市木刈 匿名希望

意見

各項目の評点は、冷静に、客観的で公平な評価をお願いしたい。
 特に、大項目「生活環境の保全」と「自然環境等の保全」は、人が暮らす生活環境とその周囲の自然環境として、どちらかに極端に偏った評価ではなく、相互にバランスを考えつつ評価するべきである。
 (その意味で、表中に大項目ごとの小計の表記は必須である。)

「生活環境の保全」は、最大減点が「-35 点」中、

岩戸	滝	武西①	武西②	吉田	現在地
-11	-13	-7	-29	-6	-7

の減点となっており、満点中の減点率は

31.4%	37.1%	20%	82.9%	17.1%	20%
-------	-------	-----	-------	-------	-----

となっている。

すなわち、満点を-100 とした場合の評点は

-31.4	-37.1	-20	-82.9	-17.1	-20
-------	-------	-----	-------	-------	-----

である。

一方、「自然環境等の保全」は、最大減点が「-25 点」であるにも関わらず、

岩戸	滝	武西①	武西②	吉田	現在地
-25	-24	-25	-21	-19	-9

といずれも生活環境の保全より高い減点となっており、満点中の減点率は

100%	96%	100%	84%	76%	36%
------	-----	------	-----	-----	-----

となっている。

すなわち、満点を-100 とした場合の評点は

-100	-96	-100	-84	-76	-36
------	-----	------	-----	-----	-----

である。

これは明らかに、両者が全く異なる評価基準で評価され、「生活環境の保全」に比べ、「自然環境等の保全」が極端に高く評価されていることを示している。

里地里山の保全や生物多様性の保全は確かに大切であるが、例えば現在地ではクリーンセンターの周囲に多数のマンションが建ち並び、その中では多くの乳幼児、高齢者等を含む 3 万人以上の市民が一日中暮らしていることを考慮すれば、「生活環境の保全」も当然、同程度以上の基準で評価されるべきである。

以上を考慮の上、市民が納得できる評価に向け、小項目、評点を再考していただきたい。

様式 1